

韓国数理生物学会およびアメリカ数理生物学会共催の合同学術会議 (KSMB-SMB2024)

2024年6月30日(日) - 同年7月5日, 韓国数理生物学会およびアメリカ数理生物学会共催の合同学術会議(KSMB-SMB2024)が韓国ソウルにある建国大学にて開催された. 筆者は「*r/K*-selection theory in population dynamics based on individual stochasticity」というタイトルで講演を行った. 内容を掻い摘まんで説明をすると, 人口が増加しているときと飽和しているときに取れる最適な生活史はどのような方程式に従うかというものである. 本学術会議の特徴はアメリカと韓国でどのような数理生物学の研究が流行っているか知れるということであろう. 相変わらず, COVID-19がもたらした世界的な影響は尾を引いておりこのテーマに関連した感染症の数理のセッションは多かった. また, かつては数理生態学などマクロの人口動態の研究や複雑系と呼ばれる非線形力学系を中心とした研究が散見されたが, 昨今は細胞内の生化学反応や細胞同士の相互作用を扱うマイクロのモデルが増え, 非線形力学系だけでなく, 筆者が得意とする確率モデルが増えてきているように感じた.

また, 懇親会は韓国らしく, 研究者の交流の場というよりも韓国を訪れた研究者への歓迎会という色の濃さを感じた. 具体的には韓国伝統の踊りや, YOUTUBEで10年以上前に流行ったK-POPアーティストの生コンサートなどに多くの時間を使っており, 懇親会の意味合いもここまでお国柄が出る事は筆者には新鮮な経験となった. (大泉 嶺 記)

国連世界人口推計2024年版解説セミナー

7月11日は1987年のその日, 世界人口が50億人になったことを記念して世界人口デーと国連が決めたものであるが, 今年の7月11日に国連人口部は世界人口推計2024年版を公表した. その翌日7月12日(金), 国連人口部, 国連広報センター(東京)と連携し, 国立社会保障・人口問題研究所にて解説セミナーをハイブリッド形式で行った. 筆者が概要を, 岩澤美帆人口動向研究部長, 是川夕国際関係部長が日本の将来推計人口(令和5年推計)との比較について説明し, その後質疑応答が行われた. 寿命や移民・難民の今後のシナリオ, 出生率が上がるという仮定値の真偽, 足元の日本の死亡数と国連の値との違い, 人口統計の実際の値の完璧性などについて質問があった. 今後は2年毎の世界人口デーに国連人口推計が更新される予定となっている. (林 玲子 記)